

要な概念である。

② 姑息の愛をなすべからず一盲目的愛情、溺愛的愛情、過保護的愛情等が育児において近視眼的な誤った愛情であり、真実の教育的愛情は、もっと理性的であり、きびしさを含むものであることを力説している。

③ 左右の人を選ぶ一子供は、周囲の人々に影響されて人格形成がなされていくので、子供に接触する人々の選択が人格を第一条件として、深い配慮を払ってなされねばならない。

以上の三つの概念は、近世という封建社会の時代的制約の中で執筆された思考にもかかわらず、現代においても育児学的妥当性が認められるのである。

D-2 貝原益軒の「和俗童子訓」に現われた 育児思想について

大阪薫英女短大 土山 忠子

1. 今日の我が国における育児教育は、欧米の理念や方法に負うところが大きいであるが、宝永七年(西暦1710年)今から凡そ250年前に執筆された我が国で最古の教育学の専門書である「和俗童子訓」(総論、巻I、巻II)に現われる育児思想を研究し、それが今日と明日の育児教育にとってどのような意義と価値を有するものであるかを考察する。

2. 「和俗童子訓」に現われた育児思想を今日の心理学、教育学、生理学、社会学等の諸科学的立場から検討、分析する。

3. 「和俗童子訓」には、主要な育児思想として、次の三つの概念が見出される。

① 予めする教育—これは乳幼児教育の重要性を強調する思想であり、貝原益軒の思想の中に一貫して流れる主